

学生大使 実施報告書

氏名：後藤早希

学部・学科（コース）・学年：医学部・看護学科・1年

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2024/02/21～2024/03/06

1. 日本語教室での活動内容

日本語教室では、山形大学の参加者の人数が多かったため、現地の学生と一対一で授業をすることがほとんどであった。学習テキストを持参して、参加してくれる現地学生もいた。日本語能力試験の過去問を一緒に説いているときは、相手に考える時間を与え、分からないときもどれが正解かとりあえず答えてもらうようにした。それぞれの選択肢の言葉の意味を説明し、理解しづらい時は、例文を示して説明するように努めた。相手が話そうとしているときは先走って解釈せずに、少し待つことを意識した。一級の問題を解く機会があったが、私たちが普段使っている言葉は、ごく一部にすぎず、その言葉がどういう意味か理解していないところがあると実感させられた。日本語が分からない学生には、自己紹介や日常の挨拶をベトナム語で何というかを教えてもらいながら、日本語に当てはめ、教えた。急にひらがなを教えるのではなく、現地の言葉と日本語を組み合わせると習得しやすいようであった。

2. 日本語教室以外での交流活動

大学付近にはたくさんの店があって、現地学生のおすすめの店に連れてってくれることが多く、ベトナムのご飯を堪能することができた。様々なハーブが小さなザルに盛られ、提供されていた。私は、特にしそを入れて食べるブンチャーを気に入った。日本では飲食店が開店するのは昼近くであるが、午前8時といえば、ほとんどの店が開店していて仕込みをしていたことに驚いた。また、食事の提供までの時間もすごく早かった。食事後にQRコードでの決済をしている人がほとんどだった。バスで移動をする際には、乗客がまだ乗り切っていないのにバスが動いていることに驚いた。つり革に掴まっただけでも前後に揺られるので、一種のアトラクションのようであった。道路を横断しようとしても止まってくれる車両はなく、タイミングを見計らって渡ることに毎回スリルを感じていた。信号に対しては非常にルーズであり、クラクションで危険を知らせるだけでなく、自分の存在を示すために鳴らしており、交通状況の違いに圧倒された。オーシャンパークや文廟、ホアロー刑務所、イオンモール、ホアンキエム湖、バッチャン村など様々な観光地に連れてってもらった。一緒に歩いているときや食事をしているときに聞こえてきたベトナム語をまねして発音したら、あなたベトナム人！とすごく喜んでくれた。アオザイを着て、大学構内で写真を撮った際は、現地学生のポージングの指導や写真の画角がプロ並みの技術で、満足するまで写真を撮ってくれ、有意義な時間を過ごすことができた。

3. 参加目標への達成度と努力した内容

今回参加するにあたって目標は二つあった。一つは、積極的にコミュニケーションを図ることだ。初対面で話しかけることに最初はためらいもあったが、日々を過ごす中で話しかけられるようになったと思う。また、自分が普段話している日本語はかなり、カジュアルで、早さもあり、聞き取りづらいのだと感じた。自分の伝えたいことを分かりやすく伝えるために単語で区切るようにすることなどコミュニケーションの取り方に変化があった。夕方から日本語教室が始まるので、大学の授業終わりに来てくれる方もいた。忙しくて、一回来ただけで来られない方もいたので、次会えるからと話しかけるのを後回しにしないで、声をかけてみればよかったと思った。

二つ目は、気づき、思考をすることであった。現地の食に興味があった。私は、現地の食が自分の口の口に合うと感じた。炭火で肉を焼いたり、店先で調味料の仕込みをしていたりして、朝からいろいろな匂いがしていた。ベトナムの朝は早く、野菜や果物、肉等並べ、商売をしていた。肉は毛を剥いだそのままの状態、切って売られていたので、バックに入れられた肉を購入している身にとって、目を引かれた。生産者と消費者が会話しながら購入できるのいいところだと感じた。現地学生がサポートしてくれるからこそ、現地に入り込み様々な体験ができたと思う。

4. このプログラムに参加した感想

着いた日は暑かったが、次の日からは肌寒く、ダウンを着ていて調度なくらいだった。寒暖差に対応できず、風邪を引いてしまったが、一緒に行った山形大学の友人から風邪薬をもらって、回復した。いつどうなるか分からないので、渡航前の準備を万全にしておきたいと思った。観光地からホテルに帰る時にバイクの後ろに乗せてもらったことがある。観光地から一歩ずれると、環境が一変していた。真っ黒になりながら農業に勤しんでいる人や重油のように黒く汚れた川、不法に投棄された多量のゴミ等見たことのない光景があった。大規模の開発の裏には数多くの問題が残されたままであり、改善する必要性を強く感じた。たまたま財布に入っていた100円を現地学生にあげたときにベトナムではご飯一食分の価値があるといい、大切にしまっている様子を見た。それまでは日本より安いからたくさん買おうとか、お金を使う感覚が少し狂っていたが、お金のありがたみや大切さを改めて感じた。

5. 今回の経験を踏まえた今後の展望

現地の学生と過ごして、ベトナムでは建国記念日や女性の日、先生の日といった記念日をとっても大切にしている。日本ではこのような記念日がありますかと聞かれたときに、日本の記念日を曖昧にしていた自分が恥ずかしく思えた。GWだから、祝日だから出かけようと目先の欲求にとらわれて行動するのではなく、なぜこの日が設立され、何のためにあるのか覚えておきたい。また、大切な人に花束を贈る文化が素敵だと感じた。花束を贈れるような人になりたい。今後も国際関係のイベントや留学のチャンスがあるならば、積極的に挑戦していきたいと考えている。

6. 現地での活動写真

アオザイ



現地学生と食事



日本語教室の様子

